




週間市場レポート (2022年6月20日~6月24日)

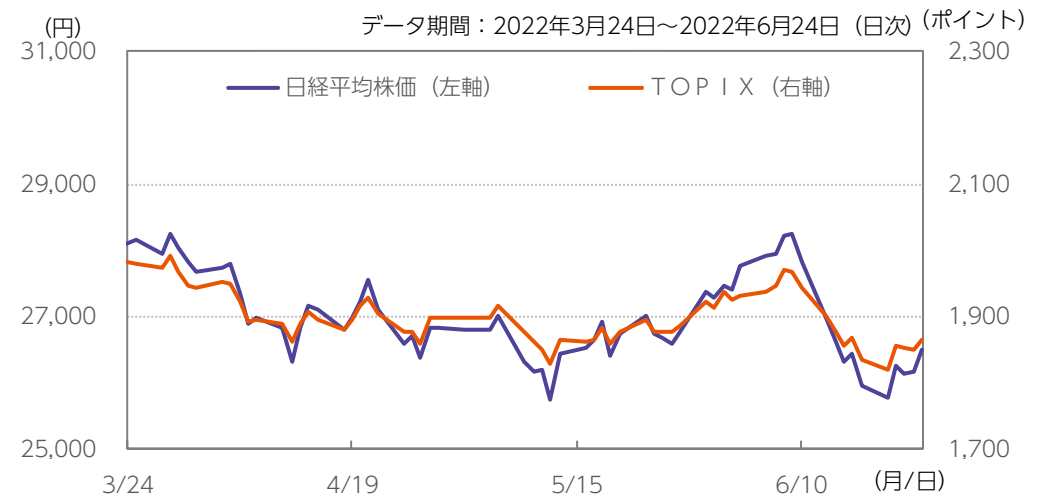
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/6/17	先週末 2022/6/24	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		25,963.00	26,491.97	2.04 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,835.90	1,866.72	1.68 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		29,888.78	31,500.68	5.39 ↗
S&P500種指数		3,674.84	3,911.74	6.45 ↗
ナスダック総合指数		10,798.35	11,607.62	7.49 ↗
ユーロ・ストックス50指数		3,438.46	3,533.17	2.75 ↗
S&P/ASX300指数		6,455.00	6,557.22	1.58 ↗
上海総合指数		3,316.79	3,349.75	0.99 ↗
MSCI AC アジア (除く日本)*		828.33	840.72	1.50 ↗
東証REIT指数		1,923.29	1,914.46	▲0.46 ↘
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		748.23	798.63	6.74 ↗
ASX300 REIT 指数		1,299.20	1,391.50	7.10 ↗
グローバルREIT (除く日本)*		177.55	186.33	4.95 ↗
日本10年国債 (%)		0.228	0.230	0.002 ↗
米国10年国債 (%)		3.226	3.130	▲0.095 ↘
ドイツ10年国債 (%)		1.661	1.442	▲0.219 ↘
英国10年国債 (%)		2.498	2.302	▲0.196 ↘
ドル/円		135.02	135.23	0.16 ↗
ユーロ/円		141.70	142.79	0.77 ↗
英ポンド/円		165.31	165.82	0.31 ↗
豪ドル/円		93.61	93.90	0.31 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,578.54	2,718.47	5.43 ↗
WTI原油先物 (ドル)		109.56	107.62	▲1.77 ↘
CRB指数		309.08	298.55	▲3.41 ↘

2) 日本の株式・債券市場

◀ 株式 ▶

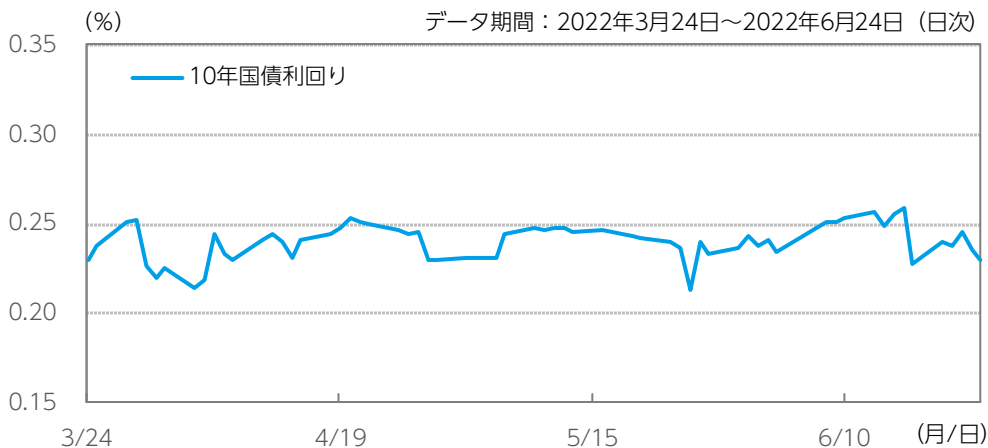
日本株式市場 (日経平均株価) は、前週末比で上昇しました。米連邦準備制度理事会 (FRB) をはじめ欧州などの中央銀行の急速な金融引き締めが世界景気の減速につながるとの懸念から、前週末から引き続き下落し、20日 (月) の終値は5月12日以来の安値を付けました。その後は、前週の大暴落の反動から、下落幅の大きかった主力銘柄を中心に買いが入り、週間では前週末比で上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

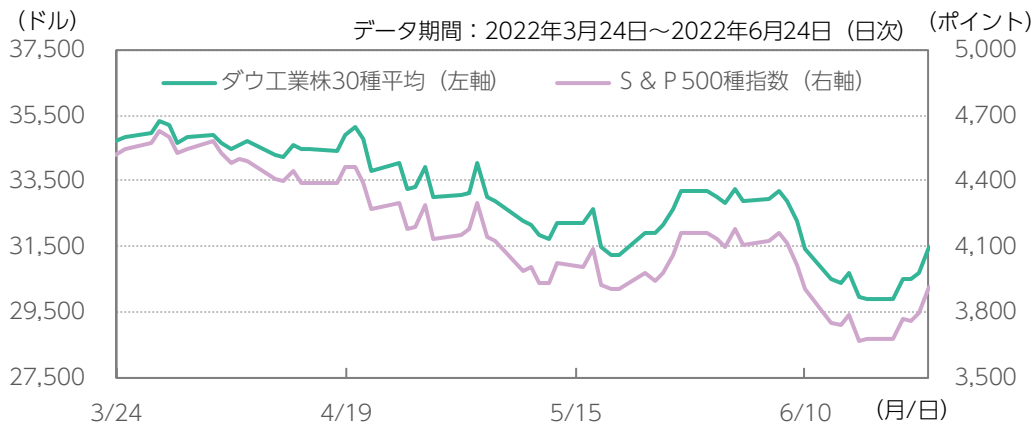
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。前週末に米長期金利が上昇した流れを受け、週初は上昇したものの、日銀が連続指値オペ（公開市場操作）の実施で、金利上昇を抑える姿勢を示していることから上昇幅は限られました。米景気減速懸念から、週末にかけて米長期金利がやや低下した流れを受け国内金利も低下し、週間では前週末比で横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

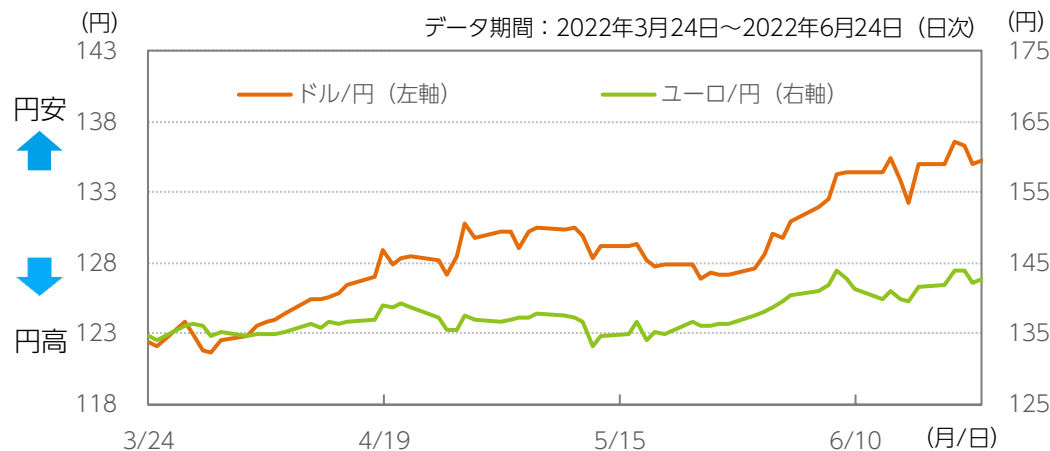
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で大幅上昇しました。FRBの金融引き締めにもなう景気減速懸念は根強いものの、前週の大幅下落の反動で、短期的な戻りを期待した買いが優勢となりました。22日（水）にパウエルFRB議長が議会証言で、米景気の先行きについて厳しい見解を示すと、景気減速懸念から下落したものの、週末に公表された消費者の期待インフレ率の低下を示す米経済指標の発表を受け、FRBによる急速な利上げ懸念が後退すると、週末は大幅上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。金融緩和を続ける日本と金融引き締めを進める米国との金融政策の方向性の違いが意識され、円売り米ドル買いが優勢となりました。しかし、金融引き締めによる景気減速懸念から米長期金利が低下する場面では、日米金利差縮小が意識され、円買い米ドル売りがやや進みました。



5) 今週の見通しについて

主要国の急速な金融引き締めによる世界景気の減速懸念がくすぶるなか、先週の株式市場は、前週の大幅下落による値ごろ感から主力銘柄を中心に買い戻しが入り、日米両市場ともに上昇しました。

パウエルFRB議長は22日（水）の議会証言で「経済のソフトランディング（軟着陸）は非常に難しい」と、米景気の先行きについて厳しい見解を示すとともに、景気を犠牲にしてでもインフレを抑える姿勢を改めて強調しました。当面は、米国や欧州主要国の急速な利上げとそれにもなう景気減速懸念をめぐり、株式市場は一喜一憂することが予想されます。

先週末に公表された米シガン大学消費者マインド指数（確定値）で、中長期のインフレ期待が速報値から下方修正され、FRBによる急速な利上げ懸念がやや後退したことから、今週前半の株式市場は上値を試す展開となりそうです。ただし、週後半に公表される米国の個人消費や景況感を示す経済指標で米景気の減速が確認されれば、値を下げることとなりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>